

News Source

歴代講師の肖像

毎年11月27日に開催される大学報恩講と同時にされる歴代講師謝徳法要では、本学所蔵の親鸞聖人御影と歴代講師27名の肖像が講堂に掛けられます。歴代講師とは、大谷大学の前身である学寮で、最高学職の講師職をつとめた方たちのことで、正徳5年(1715)に任じられた光遠院恵空(1644~1721)から27代吉谷覚寿(1843~1914)までをさします。現在でも真宗大谷派には講師職はありますが、明治40年の学階条規の発布で学寮の学職であった講師職が廃止されました。

肖像画は明治の終わりから大正の初めにかけて調べられたものと考えられています。後

に修復されたものを除いて、表装は紺色と緑の布地で統一され、その布地には三つ葉の葵や蝙蝠の柄などが地文様として織り込まれています。

歴代講師の軸は、現在では7月に行われる安居の報恩講と11月の大学報恩講の年2回公開されます。7月の安居報恩講は尋源館で、11月は講堂で行われています。軸掛けの作業は、図書館・博物館のスタッフによって慎重に行われます。普段はこのような資料に触れる機会のないスタッフにとっても、大事な資料を扱うことへの意識が高まる一日でもあります。



報恩講での作業風景